

(別紙様式)

金沢市立千坂小学校

〔はじめに〕

本校は、金沢市の北部に位置し、昭和28年に開校した。全校児童は、664名、教職員は40名である。

学校の周辺には、たくさんのレンコン田が広がり、地域の特産物となっている。また、学校近辺には、「千坂ネイチャーフィールド」という学校園もあり、自然に親しむことができる。校区内には、国道8号線や北陸自動車道、JR北陸線などが走っており、交通量が多いのも特徴である。

昨年度から、ユネスコスクールの認定を受け、地域や環境をテーマとして、持続発展教育の実践に取り組んでいる。

魅力発見！わたしのまち「千坂」

1 ユネスコスクールとしての取組

1年生 「あきとなかよし ねんちょうさんとなかよし」

本学年は生活科を主としながら、ESDの視点に立った学習指導を行ってきている。地域の自然や地域の人とかかわることを通して、それらに関心を深めるとともに校区に対する親しみがもてるようになることをねらった取り組みである。

年間を通して地域の保育園の年長児との継続的な交流をし、10月には年長児とともに地域の公園へ出かけ、公園でネイチャーゲームをしている。児童一人一人が幼児と手をつないで道路を歩いたり、ネイチャーゲームをしたりすることは、児童らが年下の年長児の気持ちに配慮しながら行動したり、積極的にコミュニケーションをしたりするような主体的な姿となって現れていた。また、ネイチャーゲームを行ったことは、「千坂校区の秋の自然物をもっと見つけたい」という児童の学習意欲につながり、千坂校区の秋の草花や実などを見つけ、それらで遊んだり、自分達の遊びに取り入れたりすることとなった。「自分達の作った秋の遊びの場に年長児を招待したい」という思いをもちながら学習に取り組む姿から、児童が地域の自然や人に関心を深め、それらに親しみがもてるようになっていっていると思われた。



2年生 「ひと・もの・自然との出会い」

生活科の学習で春、夏、秋の季節ごとに「ネイチャーフィールド」探検を行った。そこで、子ども達はバッタ、カマキリ、チョウやトンボ、ザリガニ、カエルなど様々な生きものと楽しく関わることができた。しかもただ虫取りを楽しむだけではなく、正しい名前や体のひみつ、飼い方など本を通して調べてみたいという声もでて、意欲的に学習を進めることができた。また秋には校区探検も行い、地域の施設や商店、保育園などを訪問し、地域の人々の声に耳を傾けることができた。冬には廃品を利用した「遊んで、試して、工夫して」の発展学習として、「わくわくあそびランド」を開設し、一年生を招待し、手作りおもちゃやゲームの楽しさを味わうことができた。また、どの学習においても実行委員を決め、2年生なりに主体的に学習が進められるように工夫した。

3年生 「千坂レンコンをさぐる」

3年生では、毎年、地域の特産物であるレンコンを題材にして、学習に取り組んでいる。今年度はレンコンを育てて、食べるという活動で終わるのではなく、ESD教育の観点から、地域のレンコンに愛着を持ち、千坂に残るレンコン田を大切に守り続けようとする心情を育てたいと考えた。そこで、レンコン収穫を待つ間、千坂レンコンの歴史、農家の仕事、流通、農家や地域の思いについて、グループごとに調べる活動をした。調べる中で、レンコン田の減少や農家の悩み、地域の方のレンコンを思う気持ちを知り、千坂レンコンを守るために自分たちに何ができるかを考えた。そして、調べたことをお家の方や地域の方、全校に伝えることが、千坂レンコンを守ることにつながるとの観点から、授業参観での発表会や親子レン

コンパティを行ったり、各クラスに伝えに行ったりした。また、お家の方から教えていただいたレンコン料理のレシピブックを作り、先生方やお家の方に配ったところ、たくさんの感想をいただき、子ども達は自分達の思いが伝わったという充実感を得ることができたようだ。この学習を通して、多くの先生方や地域の方と関わり、確実に千坂レンコンや地域への愛着を深めることができた。

4年生 「住みよい町 千坂」

社会科で学習したごみ処理や水の浄化に関する学習と関連させて、総合的な学習の時間には、「住みよい町 千坂」をテーマにして、身近な環境問題に取り組んだ。ごみ焼却場や不燃物の埋め立て場、リサイクルセンターなどの社会科見学を通して、金沢市が抱えるごみ問題について理解を深めた子ども達は、ゴミを減らすために自分たちにできることを考え、グループごとに取り組んだ。また、学校周辺に広がる水田やレンコン田を潤す用水路についての学習を通して、きれいな用水を守っていききたい、きれいな水を守るために自分たちができるとしていこうという意識を持つことができた。



5年生 「レンコン田のひろがる町」

5年生では、まず、加賀レンコンそのものよさや特徴について学習する活動をした。3年生の学習をふり返し、レンコンの栽培法や千坂でレンコンが大切に栽培されている理由について学習した後、学習の範囲を「加賀野菜」に広げて調べる学習を展開した。それぞれの加賀野菜の特徴やその歴史、どのように調理され食べられているのか等について調べた。内容ごとにグループでまとめ、ワークショップ形式で発表、し交流することができた。レンコンしか知らなかった児童が、この学習をきっかけに金沢独特の野菜について知識を深め、加賀野菜を大切にしている生産者の思いにも触れ、金沢について学ぶことができた。

6年生 「千坂から世界を見よう」

自分のふるさと、金沢について知るために、金沢の伝統的な祭りや名所、伝統芸能から自分のテーマを設定し、調べ学習を進めた。また、課外の活動として、親子で金沢の名所を実際に訪れるなど学習に生かした。現地で見聞きしたことをガイドブックにまとめ、金沢の歴史、伝統、先人の知恵について考えを深めた。さらに、金沢が「ユネスコ・クラフト都市」に認定された意味を考え、世界の中の金沢を見つめ直した。学習のまとめのプレゼン発表では、生まれ育った「金沢」への感謝の気持ちを表す姿も見られた。

児童会の取り組み

環境委員会では、使用済みのペットボトルキャップを回収し、世界の子供達にワクチンを届ける運動を行ってきた。今年度は、68000個のキャップを回収し、85名分のワクチンを送ることができた。これらの活動を通して、全校児童で世界にまで視野を広げ、今ある社会を持続させるために、自分たちが役に立てることに取り組んでいきたいという思いを持つことができた。

2 成果と課題

昨年度から始まったユネスコスクールの取り組みであり、新しいことを試みるのではなく、ESDの視点から、従来から行ってきた生活科や総合的な学習の時間のカリキュラムを見直し、修正して作成したESDカリキュラムの実践を行った。また、総合的な学習の時間は、様々な教科の学習と深く結びついていることから、ESDカレンダーも作成し、教科との関連も考えながら実践を行うことができた。学年ごとに、学習に使用した資料や学習に関わってくださった地域の人材についてファイルにまとめ、次年度以降の活動につなげて生かすことができるようにしている。

さらに、ESDについて全職員で共通理解するために、校内研修会を開いた。金沢大学の鈴木克徳先生を講師としてお招きし、8月にESD教育の講義を受け、2月には、来年度の実践に向けて助言をいただいた。生活科や総合的な学習の時間の実践がESDであること、そして各学年の重点を明確にして、学校全体の系統性を考えていく重要性を示唆していただき、来年度の方向性を持つことができた。全職員がESDについて共通理解することで、全校でESDを推進していくことを確認できた。

各学年で工夫した取り組みが行われ、今年度は、全学年で学習成果を交流し合う場を設け、発信することを計画的に位置づけた。全児童や一つ下の学年、保護者や地域の方々にも様々な形で発信することで、学びをまとめたり、表現力を高めたりすることができた。

来年度は、さらにカリキュラムやカレンダーのブラッシュアップをはかり、交流・発信の場を広げていきたい。